

梅ノ辻クリニックは、頭痛に力を入れているクリニックとして、皆様に頭痛のいろいろな情報を提供してゆきたいと思えます。



片頭痛

頭がずきずき痛んで、何もする気がしない。暗くて静かなところで休んでいたい。ひどいときは食べ物をもどしてしまう。そんなあなたは片頭痛に違いありません。本当にゆううつですね。片頭痛の何よりもの特徴は、ふだんの生活に差し支える頭痛なんです。家事ができない、会社を休む、勉強する気がしない、など。若い女性に多く、生理の周期によって影響されることも多く、女性ホルモンが関係しているといわれています。更年期に頭痛が軽くなる方もよくあります。

数年前から、片頭痛に本当よく効くお薬を処方できるようになりました。現在5種類の薬（イブプロフェン、ゾミックス、リパックス、マカルト、アマゾ）があって、それらをまとめて**トリプタン**といいます。錠剤、水なしで口内で溶ける薬、点鼻薬、注射薬、そして最近では家で自分で注射ができる**自己注射薬**も処方できるようになりました。頭痛に悩まれている方は、ぜひご相談ください。

頭痛で病院へ来られる方の多くは片頭痛です。片頭痛はいつも同じように起こるのではなく、回数が増えたり、また強さも環境によって変わることがあります。ストレスや妊娠によってもよく変わります。少しでも頭痛がよくなって明るい人生を取り戻してくださいね。

■ 頭痛相談 Q & A

30歳代女性の質問

Q: つらい頭痛がしばしばあります。頭痛はどこかの病院へいけば、診てもらえるのでしょうか？頭痛外来があるということを聞いたことがあります。

A: 日本の頭痛診療は現在、十分とはいえない環境にあります。CTやMRIをとって、異常がなければ痛み止めの処方をして終わり、というのではもちろん不十分で頭痛患者さんは救われません。頭痛は100人100様で、頭痛診療はまさにそこから始まるからです。「たかが頭痛」という認識が医療者にも一般の方にも少なくないのです。そのために頭痛を専門に診る医師が少なく、日本頭痛学会は頭痛診療普及のために、頭痛専門医の制度を2004年から始めています。それ以降、**頭痛外来を開設している医療機関が増えています**。このように、今頭痛診療も大きな変化が訪れています。私たちも、頭痛を「立派な病気」ととらえてお役に立ちたいと思えます。

■ 頭痛に悩んだ人びと

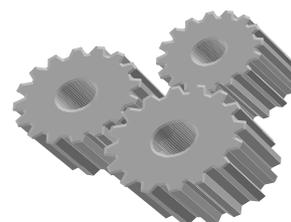
芥川龍之介

大正期の小説家

短編「歯車」に「視野のうちに妙なものを見つけ出した。・・・歯車はしだいに数を殖やし、半ば僕の視野を塞いでしまう。・・・暫くの後には消え失せる代わりに今度は頭痛を感じはじめる。それはいつも同じことだった。」

以上の記述は片頭痛の前兆発作によく似ています。龍之介は頭痛もちだったのでこのような詳しい記述ができたのでしょう。

(HP頭痛大学より抜粋)



梅ノ辻クリニック

〒780-8011 高知県高知市梅ノ辻8-7

Tel : 088-833-4580

URL <http://www.umenotsuji-cl.jp/> 2009.1.25発行